

REALPIANO DIGITAL
DIGITAL

pRP6

取扱説明書



株式会社サウンドハウス
Professional Sound Equipment
S p e c i a l i s t
〒286-0044 千葉県成田市不動ケ岡1958

TEL:0476-22-9333 FAX:0476-22-9334

Contents

Instrument Layout

Playing the pRP6

The fynctions of the pRP6

MIDI

Appendix

英語版を参照下さい

はじめに

この度は GENERAL MUSIC 社製のデジタルピアノをお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。
pRP6 には GENERAL MUSIC 社製デジタルピアノシリーズの上級モデルと同等の音源を搭載し、コントロールパネルを鍵盤の左端に配置する事で使い勝手の向上を図りました。
pRP6 は最先端の技術と高品質なパーツを駆使して使いやすいインターフェースと組み合わせる事で Real Piano オリジナルの音を開発することに成功しました。
pRP6 は 10 種類の高級ピアノ音が含まれる計 32 種類の新プリセットを搭載しています。更にコントローリング・デバイスを MIDI 接続することで 444 の GM/GMX 対応サウンド・ライブラリーを使用することが可能です。その他、プリセット音を高めるデジタルリバーブを 22 種類とディレイ/モジュレーションを装備しています。各プリセットを選択すると自動的にエフェクトが呼び出されます。
また、6W+6W の力強い内蔵ステレオ・アンプシステムが正確にアコースティック・ピアノ音を再現します。
pRP6 の操作はとても簡単で直ぐに使いこなすことができますが、商品の性能をフルに発揮させ、末永くお使い頂く為にも、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読み下さい。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

ご使用の前に

1. この取扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. GENERAL MUSIC 専用の電源アダプターを使用下さい。
3. 手が濡れている際、電源アダプター、電源端子に触れないで下さい。
4. 電源プラグを抜く際は、電源コードではなく必ずプラグをもって抜いて下さい。
5. コードは強引に曲げないで下さい。
6. 電源アダプター又はコードに傷、切れ、破線、接続不良があると、感電や火災の原因になる可能性があります。この様な症状が確認できたら、使用を直ちに止め、GENERAL MUSIC 専用の電源アダプターと交換して下さい。

こんな時は

楽器に水が入り込んでしまった場合：

アダプターを直ちにコンセントから外し、楽器をご購入されたお店に連絡して下さい。

楽器を花瓶や飲み物が入ったグラスの置き場として使用しないで下さい。

内部に物が入り込んでしまった場合：

金属、その他の物が入らないよう気をつけて下さい。

金属製の物が入ってしまった場合感電や故障の原因になることがあります。

万が一物が内部に入ってしまった際、電源アダプターをコンセントから外して下さい。

性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないで下さい。修理が必要な時には、販売店、もしくは輸入代理店までお問い合わせ下さい。

楽器が正しく作動しない場合：

電源を切って電源アダプターをコンセントから外してください。使用を直ぐにおやめ下さい。変作動の際、ご使用を続けますと故障や事故につながる恐れがあります。

メンテナンス

pRP6 のキャビネットや鍵盤は軽く湿らせた柔らかいクロスで拭き、最後に乾いた柔らかいクロスで磨いて下さい。

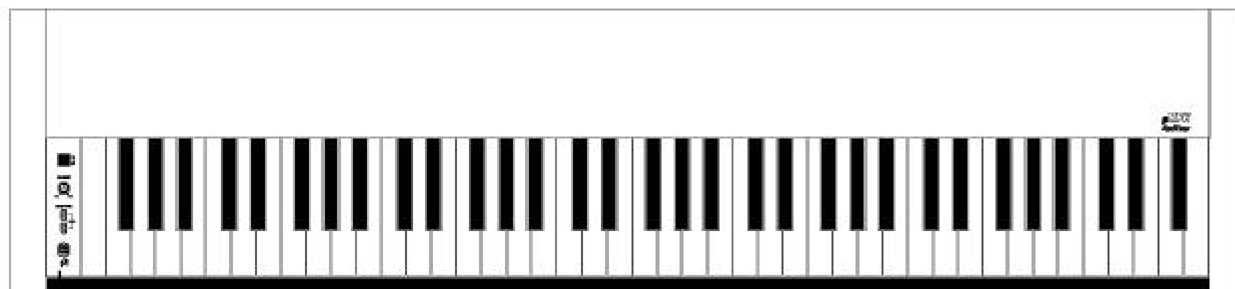
市販クリーナー（洗剤やワックス等）のご使用はお避け下さい。楽器の仕上がりを傷つけてしまう可能性があります。

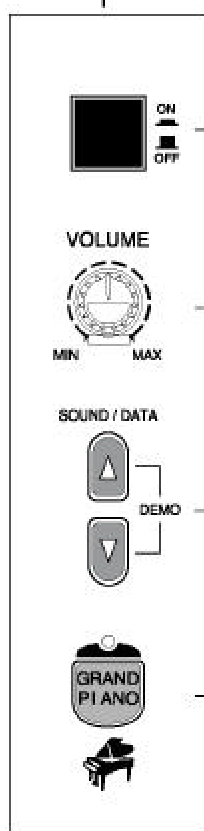
演奏終了後は必ず電源を切って下さい。連続して電源を入/切すると楽器内の電子回路などに大きい負担がかかります。お避け下さい。

Instrument Layout

Control Panel

pRP6





1. 電源スイッチ

電源を入/切します。

2. VOLUME

音量調節を行います。

3. DATA△/▽

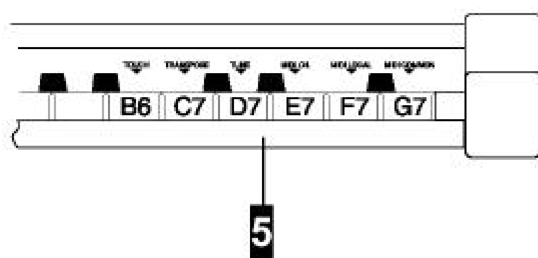
このボタンを使用しプリセット（シングル､レイヤー、スプリット音コンビネーション）の選択を行います。ボタンを同時に押すことで DEMO 曲が始まります。ファンクション・モードでは DATA m/n ボタンが選択されている機能のパラメーターを変更します。ファンクション機能はキーボード上の最も右側の 6 鍵で選択可能です。

4. GRAND PIANO

ボタン 1 つでキーボードの音色はグランドピアノのプリセットと変わります。

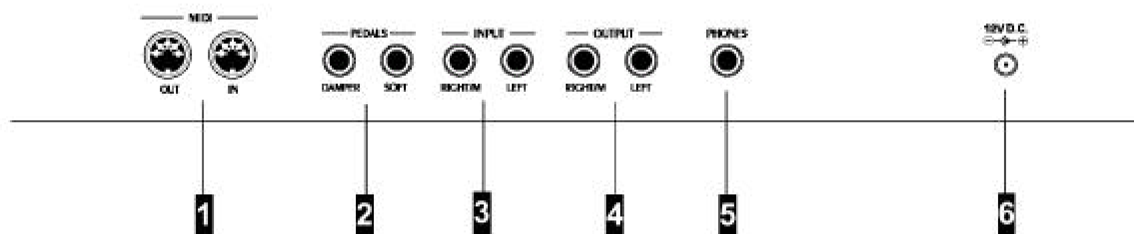
5. ファンクション・キー

最上段のオクターブ上にある B6〜G7 は pRP6 のファンクション・キーとなります。ファンクション・パラメーターはファンクション・キーを押しながら DATA m/n を押すことで選択可能です。



Rear Panel

pRP6



1. MIDI IN/OUT

MIDI 端子を使って外部機器（コントローラーやシーケンサー等）と接続し pRP6 の音源を操作することができます。MIDI OUT の端子は pRP7 の MIDI データを外部の MIDI 機器に送ります。

2. PEDALS ペダル

接続端子を 2 つ(ソフトとダンパー)装備しています

3. RIGHT/M-LEFT 入力

他の楽器や音源モジュールをピアノに接続する際に使用する 2 ヶのステレオ入力端子です。他の楽器の出力信号はピアノのメイン信号とミックスされ OUTPUT、SPEAKER、HEADPHONE それぞれの端子に送られます。モノラル機材（例：マイク）に接続する場合は RIGHT/MONO 端子のみを使用して下さい。

4. RIGHT/M-LEFT 出力

外部アンプ、ミキサー、レコーディング機材等にステレオ信号を送る際に使用する 2 ヶのステレオ入力端子です。モノラル機材（ギターアンプ）に接続する場合は RIGHT/MONO 端子のみを使用して下さい。

5. ヘッドフォン端子

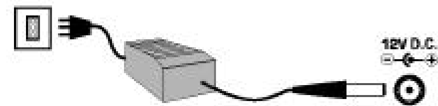
ヘッドフォンを接続する時にこの端子に接続して下さい。個人練習などの際にとても役に立ちます。

6. 12VD.C.電源端子

電源アダプターを接続する端子です。メーカー指定の電源アダプターのみ使用下さい。

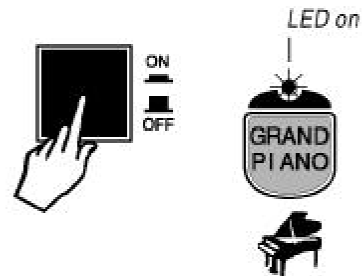
pRP6 を弾いてみましょう

アダプターの接続



GENERAL MUSIC アダプターを 12V D.C.端子に接続し、プラグをコンセントに差込んで下さい。

本体の電源を入れる



鍵盤の左に設置されている ON/OFF スイッチを押して、pRP6 の電源を入れて下さい。数秒で Grand Piano プリセット上の LED が点灯して電源が入った事を表示します。これで弾き始める事が出来ます。

全体の音量調節



VOLUME のつまみを回して全体の音量調節が可能です。

VOLUME を右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。

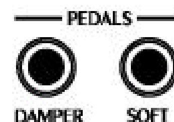
ヘッドフォン端子

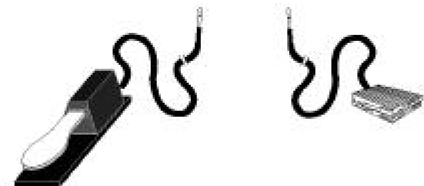


ヘッドフォン端子はリアパネルに設置されています。

ヘッドフォンが接続されると内蔵スピーカーは機能しませんので周囲に迷惑をかけずにピアノを楽しむことが可能です。この端子はステレオフォン端子になっています。VOLUME つまみで音量調節可能です。

ペダルの接続





pRP6 にはペダル用の端子が 2 つ付いています。この端子にラッチタイプペダル（別売り）を接続して SOFT と DAMPER 機能を利用することが出来ます。

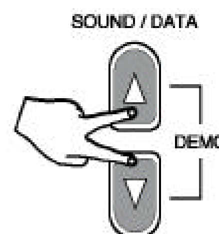
Soft：ソフトペダルはラッチタイプペダル（ON/OFF の切替）オンにすると同じタッチとスタイルで弾いても音量を低く押さえる事ができる機能です。

Damper：ダンパーペダルは弾かれた音、全体にサスティーンをかける機能です。ダンパーを踏みながら弾いた鍵は手を離した後もサスティーンがかかり、弾いている音に応じて自然にディケイがかかります。特にピアノ系の音色に効果を発揮します。

デモ曲の聴き方

pRP6 にはデモ録音が内蔵されています。

1. DATA ボタンの△/▽を同時に押すと、すぐにデモ曲がスタートします。終了すると、自動的に最初に戻り、繰返し演奏します。停止するまでループは続きます。
2. プレイバックを停止するには、再度 DATA ボタンの△/▽を同時に押して下さい。他に Grand Piano プリセットボタンを押すことで、曲を停止させる事も可能です。



pRP 6のプリセット

pRP6 にはシングル、レイヤー、スプリットの組合せで構成されている 32 のプリセットが内蔵されています。プリセットされている音色はエフェクト（リバーブとコーラス）音量とバランスが最適な状態で設定されています。

pRP6 にプリセットされている音色は右図に表示されています。音色名の後ろの（　）内に表示される文字の意味は次ぎの通りです。

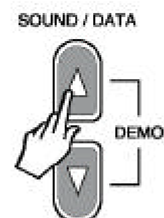
“S”＝シングル

“L”＝レイヤー

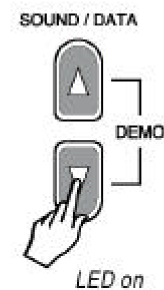
“Sp”＝スプリット

pRP6 のプリセットは SOUND/DATA の△/▽を押して順次に選択可能です。

N°	Name	N°	Name
1.	Stage Piano (S)	17.	Harpsi/Strings (L)
2.	Rock Piano (S)	18.	Vibes 2 (Sp)
3.	Rhodex (S)	19.	Rock Piano/Pad (L)
4.	Hard Rhodex (S)	20.	Rhodex Pad (L)
5.	Wurtlitz (S)	21.	FM Piano Stage (L)
6.	FM Piano (S)	22.	Strings/Choir (L)
7.	El. Glock Piano (L)	23.	Piano/Choir (L)
8.	Harpsi (S)	24.	Stage Piano/Poly (L)
9.	Vibes 1 (S)	25.	Rock Piano/Poly (L)
10.	Piano/Strings (L)	26.	Jazz Organ 1 (S)
11.	Stage Piano/Strings (L)	27.	Pop Organ (S)
12.	Stage Piano/Bass (Sp)	28.	Theatre Organ (S)
13.	Piano/Bass (Sp)	29.	Church Organ (L)
14.	Rhodex/Ride (Sp)	30.	Jazz Organ 2 (Sp)
15.	FM Pad (L)	31.	Organ/Bass (Sp)
16.	FM/El.Bass (Sp)	32.	Church/Choir (L)



1. pRP6 の電源を入れてから DATA△ボタンを押して下さい。
   最初のプリセット、“Stage Piano”（鍵盤全て）が選択されます。
2. 再度 DATA △ ボタンを押すと“Rock Piano”が選択されます。
   同様に DATA△ボタンを押すこと次のプリセット番号が選択されます。
   最後のプリセット“Church/Choir”が選択されると DATA△ボタンは機能しなくなります。



3. DATA ▽ ボタンを押して下さい。
   （2.）で選択された“ROCK PIANO”からこのボタンを押すと前の“Stage Piano”に戻ります。
   同様に DATA▽ボタンを押すことで前のプリセット番号が選択されます。
   最初のプリセット“Stage Piano”が選択されると DATA▽ボタンは機能しなくなります。



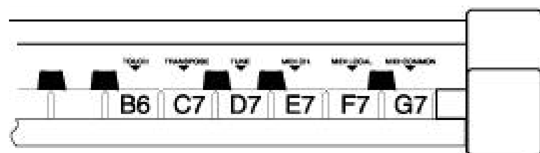
4. 現在選択されているプリセットをキャンセルしてグランドピアノのプリセットを選択する場合 Grand Piano ボタンを押して下さい。Grand Piano ボタンを押すことによって、どのような状況でもキーボード全体を Grand Piano のプリセットに戻すことができます。

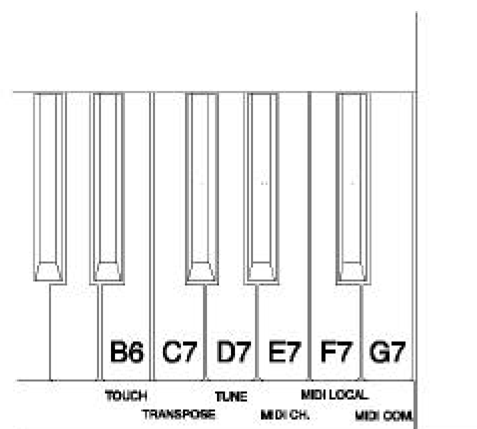
The functions of the pRP6

pRP6 の機能

pRP6 には 6 つの機能が内蔵されており、様々な設定の変更をすることができます。この機能はキーボードの最も右の鍵盤 6 つで選択します。これらの機能を活用して設定を変更する際は、相当する鍵を押しながら DATA △/▽ボタンを押して下さい。

TOUCH(B6)：	キーボードのタッチ感度を変更します。（key-strike velocity の調整を行います）
TRANSPOSE(C7)：	楽器全体のピッチの変更を行います。
TUNE(D7)：	細かいチューニングを行います。
MIDI CH. (E7)：	楽器の MIDI チャンネル設定を行います。（MIDI セットアップ用）
MIDI LOCAL（F7）：	MIDI ローカル操作を設定します。（MIDI セットアップ用）LOCAL では pRP6 を内蔵音源から切断します。
MIDI COMMON（G7）：	楽器の MIDI COMMON チャンネルを設定します。（MIDI セットアップ用）COMMON チャンネルは自動アレンジ機能を装備している MIDI デバイスを操作するのに便利です。



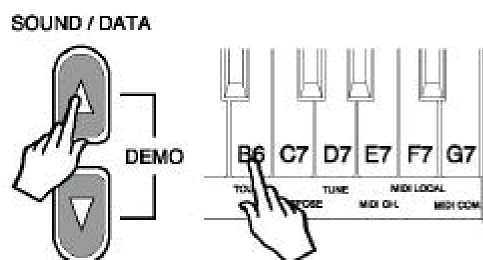


タッチの強弱設定

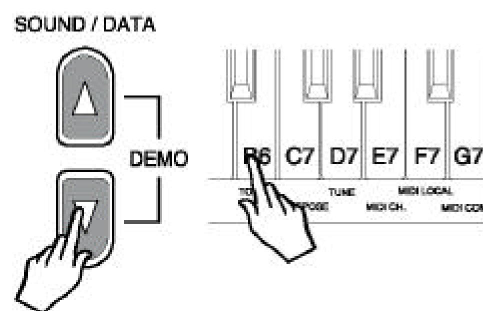
pRP6の鍵盤タッチが強すぎたり弱すぎたりした場合、調節をする事が出来ます。pRP6はタッチの強弱に対応するキーボードをアナログのピアノと同じように強く弾けば音量もその分大きくなります。

3種類のベロシティー・カーブ（SOFT、NORMAL、HARD）から選択することが出来ます。デフォルトの設定はNORMALになっています。

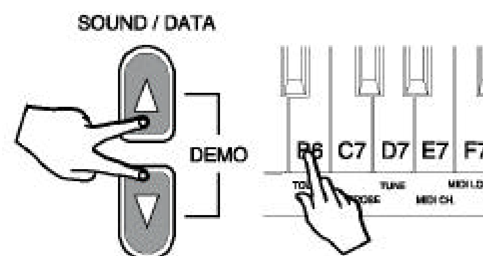
1. TOUCH機能キー（B6）を押しながらDATA△ボタンを押すとSOFT設定に、DATA▽ボタンを押すとHARD設定になります。
   この機能の選択を行うと、自動的に現在のベロシティー・カーブでレファレンス音符 C を鳴らします。この場合はNORMAL（デフォルト）設定のため、レファレンス音符Cは中位の強度で鳴ります。



2. DATA△ボタンを2度目押すとSOFT設定になり、より強い音でレファレンス音符Cが鳴ります。この場合、キーボードの感度が最も高くなる為軽いタッチでも大きな音で鳴るようになる訳です。
3. （2）でDATA△ではなくDATA▽を押すとHARD設定になり、弱い音でレファレンス音符Cが鳴ります。HARD設定の場合、鍵盤感度が弱くなる為、最大音量を出すには強めに引く必要があります。

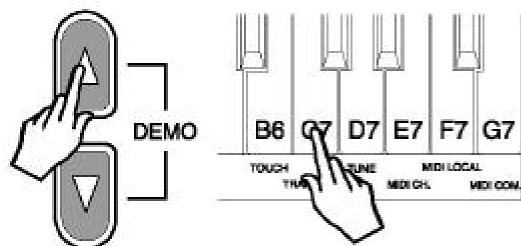


4. TOUCH機能キー（B6）を放すと新しい設定が選択されます。この設定は電源を切り、次回電源を入れた時にも有効です。NORMAL設定に戻すには下記の（5）を参照下さい。
   HARDからSOFTへ
   （3）のようにDATA△ボタンを HARD設定の状態で押すと、1度目は現在の強度でレファレンス音符を弾きます。2度押すと NORMAL になり、3度押すとSOFTの設定になります。この場合に3度異なる強度でレファレンス音を聞くことが出来ます。（低、中、高音量）
   SOFTからHardへ
   SOFT設定の状態でDATA▽ボタンを押すと、1度目は現在の強度でレファレンス・ノートを弾きます。2度押すとNORMALになり、3度押すとHARDの設定になります。この場合も3度異なる強度でレファレンスオンを聞くことが出来ます。（高、中、低音量）
5. NORMAL設定に戻すにはTOUCHキーを（B6）を押しながら、DATA△/▽ボタンを同時に押して下さい。レファレンス音Cが中位の強度で鳴り、リセットを認識した事を知らせます。



トランスポーズ

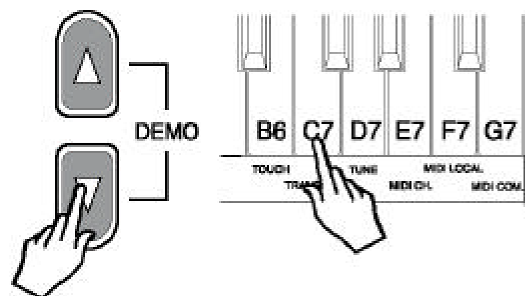
この機能で楽器全体のピッチを 1/2 ステップ毎に上下することができ、最大+/－12 セミ・トーンまで変更できます。再度変更を行うか、電源を切るまでこの設定はメモリーにセーブされます。pRP6 の電源を一度切り再度電源を入れるとノーマル・ピッチ（C=C）になっています。



1. TRANSPOSE 機能キーを押しながら DATA△/▽ボタンのどちらかを押して下さい。すると初期設定のピッチである、レファレンス音符 C の音が鳴ります（ノート C）。

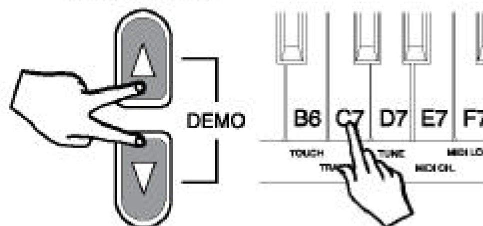
楽器のピッチを上げる

2. （1）から更にもう１度 DATA△ボタンを押すと、ピッチが１セミ・トーン上がり“ C♯ ”の設定になります。pRP6 は新しいピッチに変更されています（C=C♯）。DATA △を再度押すことでピッチが更に 1 セミ・トーン上ります（C=D）。必要なピッチになるまで繰り返し押して下さい。



楽器のピッチを下げる

3. TRANSPOSE 機能キー（C7）を押しながら DATA▽ボタンを一度押して下さい。（2）で設定されたピッチのノート（この場合は D）が鳴ります。これはレファレンス・ノートに相当します。DATA▽ボタンを再度押すとピッチが 1 セミ・トーン下がります。この場合鳴るノートは D♭になります（C=D♭）。DATA▽ボタンを再度押すことで更に 1 セミ・トーン下がります（C=C）。必要なピッチになるまで繰り返し押して下さい。トランスポーズを行うときは必ず C7 を押し続け、トランスポーズメニューから出る場合は、C7 を放して下さい。この設定は再度ピッチ変更を行うか、電源を切るまでトランスポーズされます。pRP6 の電源を一度切り再度電源を入れるとノーマル・ピッチ（C=C）に戻ります。

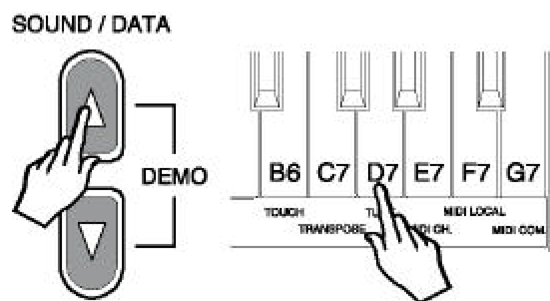


電源を切らずにトランスポーズをキャンセルするには

4. TRANSPOSE 機能キー（C7）を押しながら DATA△/▽を同時に押して下さい。中位の強度でレファレンス・ノート C が鳴りリセットを認識した事を知らせます。

Tune

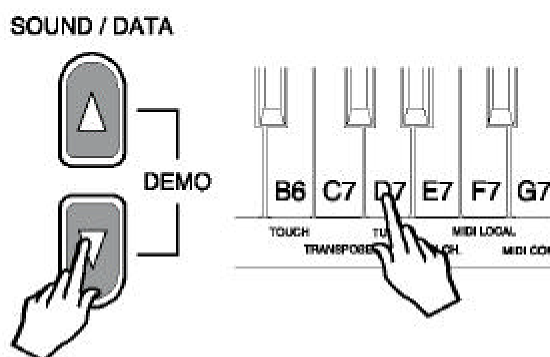
TUNE 機能で楽器の細かい音程調整が可能です。チューニングは 427.5Hz〜452.5Hz（約 1 セミ・トーン）の間で+/ - 0.5Hz 間隔で行うことができます。デフォルトは標準が A=440Hz に設定されています。



1. TUNE キー（D7）を押して DATA△/▽ボタンをどちらか押してチューニングを上げ/下げして下さい。
   DATA△/▽ボタンを初めて押しますと自動的にレファレンス音（A=440Hz）を鳴らします。

チューニングを上げるには

2. TUNE キー（D7）を押し続けた状態で DATA△ボタンを押すと音程が上がります。DATA△ボタンを押し続け、必要なチューニング・レベルまで上げて下さい。レファレンス音を利用して正確なチューニングを行うことが出来ます。TUNE キー（D7）を放すことでチューニングが決定され機能設定モードが解除されます。

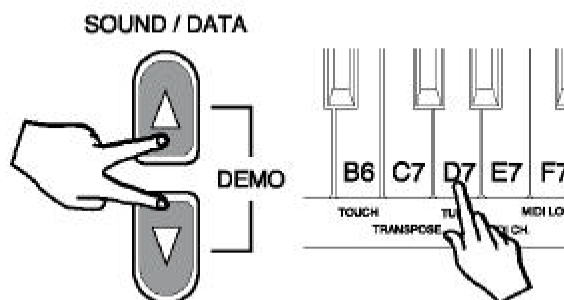


チューニングを下げるには

3. TUNE キー（D7）を押しながら DATA▽ボタンを押してチューニング機能を作動させます。すると、最後に行ったチューニングのレファレンス音が鳴ります。
   DATA▽を 2 度目に押すと、音程がワンステップ下がり（-0.5Hz 単位）必要なだけチューニング・レベルを下げることが出来ます。TUNE キーを放すことでチューニングが決定され機能設定モードが解除されます。
   この時点でのチューニング設定は電源を切った後でも残ります。ピッチを元に戻すには下記の（4）を参照下さい。

チューニングのリセット

4. TUNE キーを押したまま DATA△/▽を同時に押して下さい。レファレンス音が標準ピッチ（C=C）または現在のトランスポーズ・ピッチで鳴ります。



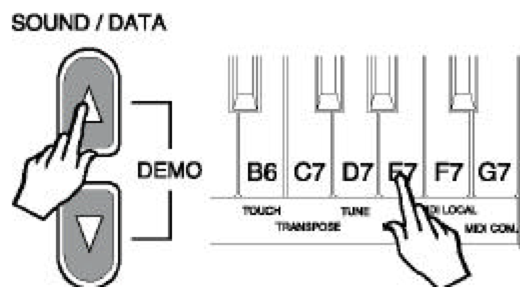
MIDI

MIDI チャンネル

使用するプリセット（シングル、レイヤー、スプリット）によって異なりますが、pRP6 は最大 3 チャンネルまで MIDI メッセージを送信する事が出来ます。受信の場合は、pRP6 では全 16 チャンネル使用可能です。MIDI 機能を使って pRP6 の MIDI 送信チャンネルを変更し、MIDI ケーブルを介して pRP6 と他の MIDI 機器の信号を送受信できるようにします。MIDI チャンネル機能の設定中はレファレンス音は鳴りません。

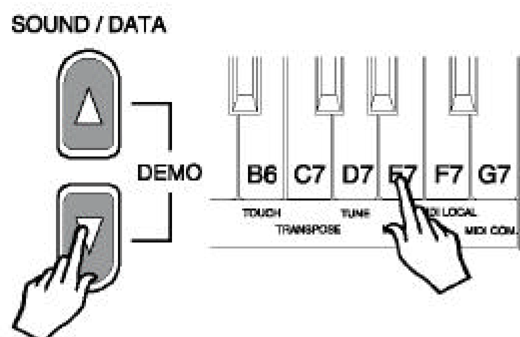
トランスミッション・チャンネル・ユニットの作成

1. MIDI チャンネル機能キー（E7）を押しながら DATA△ボタンを押して、トランスミッション・チャンネルを 1 ユニット増やします。
   DATA△ボタンを押す度に、MIDI チャンネル設定が 1 ユニットづつ増えます。
   この作業を繰り返し、必要なチャンネル数になるまで続けて下さい。



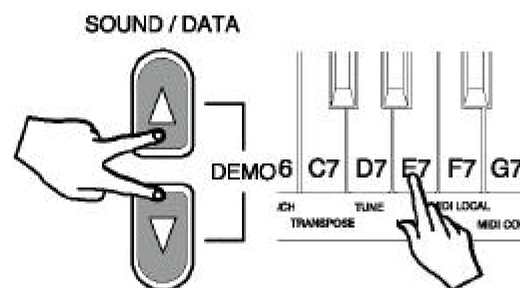
トランスミッション・チャンネル・ユニットの削除

2. MIDI チャンネル機能キー（E7）を押しながら DATA▽ボタンを押して 1 ユニットづつチャンネル数を減らしていきます。
   DATA▽ボタンを押す度にチャンネル設定は 1 ユニットづつ減って行きます。



MIDI チャンネル構成をデフォルトへ戻す方法

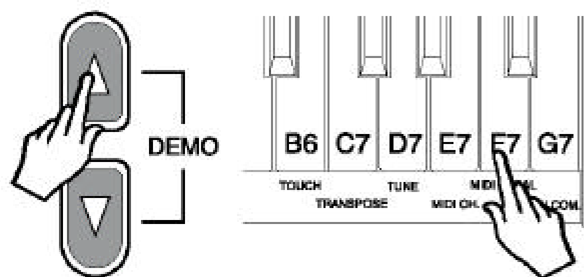
3. pRP6 が現在どのトランスミッション・チャンネルに設定されているか分からない場合、デフォルトのチャンネル設定（Ch1、3、2）に戻す方法があります。MIDI チャンネル機能キー（E7）を押しながら DATA△/▽を同時に押す事でリセットされます。



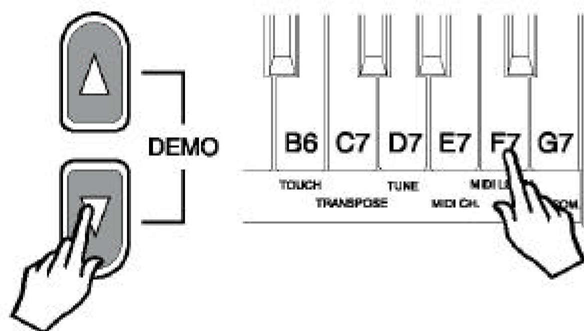
MIDI LOCAL

pRP6 を MIDI コントロール・デバイスとして外部音源（エクスパンダーやキーボードなど）と接続している場合、音源だけではなく、pRP6 の音も同時に鳴っている事がわかります。また外部デバイスのみの音を出したい時 MIDI Local 機能を OFF にして RP 音源から切断する事も可能です。
内部ジェネレーターをキーボードから切断して pRP6 の MIDI OUT のみからキーボードデータを送信する場合 MIDI LOCAL 機能を OFF に設定して下さい。
MIDI LOCAL 機能の設定中にはレファレンス音は鳴りません。

1. MIDI LOCAL 機能キーを(F7)を押しながら DATA▽ボタンを一度押し、キーボード上の鍵を一つ弾いて下さい。その際は音は鳴りません。
   これは MIDI LOCAL OFF 設定がキーボード内の内蔵音源とキーボードを切断しているためです。この設定で pRP6 からの音を無くして MIDI 経由での外部音源操作が可能です。



2. MIDI LOCAL ON に戻るには MIDI LOCAL 機能キー（F7）を押しながら DATA△を一度押し、キーボード上の鍵を一つ弾いて下さい。すると音が鳴ります。MIDI を介して MIDI LOCAL ON の状態で演奏すると、pRP6 の音と外部音源の音を同時に聞くことが出来ます。



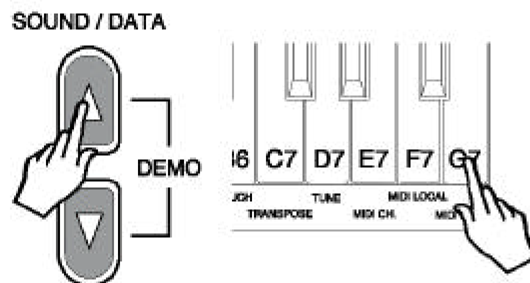
MIDI COMMON チャンネル

COMMON チャンネルとは自動アレンジ付の MIDI デバイスを操作可能にする特別なチャンネルです。
MIDI COMMON 機能の設定中にレファレンス音は鳴りません。

COMMON チャンネルをオンにする

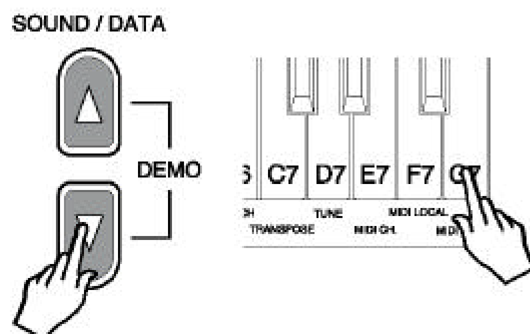
1. MIDI COMMON キー（C8）を押しながら DATA△ボタンを押して COMMON チャンネルをオンにして下さい。COMMON チャンネルはデフォルトではオフに設定されています。DATA△ボタンを押すことで COMMON チャンネルをオンにすることが出来ます。

ON の時、COMMON チャンネルは 16（固定）に設定されています。



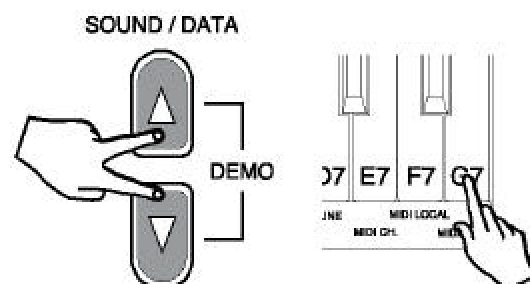
COMMON チャンネルをオフにする

2. MIDI チャンネル・キー（C8）を押しながら DATA▽ボタンを押して下さい。これで COMMON チャンネルがオフ（無効）になります。



COMMON チャンネルをデフォルトに戻す

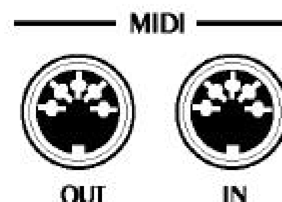
3. 現在の COMMON チャンネルの状態が不明の場合、リセットしてデフォルトの状態（オフ）に戻す事が可能です。COMMON チャンネル・キーを押しながら DATA△/▽ボタンを同時に押すことでリセットされます。



MIDI について

MIDI とは“ Musical Instrument Digital Interface ”の略であり、世界標準のインターフェースとして MIDI 対応楽器や機器等を接続し情報交換やお互いの操作を可能とします。このセクションでは pRP6 の MIDI アプリケーションを使用するのに最低限必要な知識を例題等で説明しています。MIDI と言う一般的な規格を紹介している本等はたくさん出ていますので、更に詳しい事を知りたい方は是非お読み下さい。

MIDI ポート



pRP6 には IN/OUT の MIDI ポートが装備されています
MIDI IN は外部機器からの MIDI データを受信して、pRP6 を外部から操作できるようにします。
MIDI OUT は pRP6 が作成した MIDI データ（例：鍵盤を押されたときのノートや押された速度のデータ等）を外部に送信します。

MIDI チャンネル

MIDI コミュニケーション・システムとはテレビ放送に大変似ています。各チャンネル、別々の情報を受信する事が可能です。テレビのようにデータ交換を行う際、送信側が正しく調整をされていなくてはデータ交換は出来ません。すなわち、MIDI 送信と MIDI 受信機は両方とも pRP6 の 16 チャンネル中、同チャンネルに設定されていなくてはなりません。
マルチ・ティンバー・ユニットと呼ばれる複数のチャンネルを持つ楽器は、送受信が複数の MIDI チャンネルで同時に行えるものを指します。pRP6 は 3 つの MIDI チャンネルまでの送信が可能です。受信は 16 チャンネルまで可能なのでマルチティンバー・ユニットとしての使用も可能です。

MIDI COMMON

pRP6 を COMMON チャンネルでデータ受信するように設定すると、pRP6 が受信するデータは全てプリセット変更のメッセージとして解釈され、外部キーボードから pRP6 内蔵の 16 プリセットを弾く事が可能です。外部コントロール・デバイスを pRP6 の COMMON チャンネルと同チャンネルで MIDI メッセージを受信するように設定して下さい。

pRP6 の MIDI 音色とバンク

MIDI 経由の場合 pRP6　1 台だけでは使用することが不可能な機能があります。pRP6 が選択できる最大プリセット数は 16 です。その中にはシングル音色、2 レイヤー音色、2〜3 音色を使用しているスプリットキーボードなどのプリセットがあります。
pRP6 をスレーブ・ユニットとして使用している場合、MIDI コントローラー・キーボードは内蔵されている音源を使用することが出来ます。最初の 3 バンクには 128 音（ファミリー・グループに種分けされています）、最後のバンク 4 には 60 音が収録されています。バンク 1 には業界標準の General MIDI サウンド・ライブラリーが保存されており、2 と 3 には GENERAL MUSIC のオリジナル・ライブラリーが収録されています。バンク 4 には 60 音収録されていますが、バンク 1〜3 のように“ family グループ ”には分かれていません。バンク 2 と 3 にはパーカッション“ family ”が収録されており、16 種類のドラムキットが使用可能です。バンク 4 にはドラムキットが 1 つ収録されています。

これらの音は MIDI 経由のみ使用できるもので pRP6 コントロールパネルからは使用できません。これらの音を MIDI 経由でアクセスするには ControlChange/BankSelect(CC00-BankSelect)そしてプログラムチェンジ（PC）を MIDI メッセージで送信する必要があります。Appendix 内には音とドラムキットのリストそしてバンクとプログラムチェンジ番号の詳細がありますので参照下さい。

pRP6 で MIDI メッセージを送受信

pRP6 は次のような MIDI 情報を送受信します。

- ノートとベロシティーのデータ

このデータはノートそのものとそのベロシティー値に関する状態です。受信デバイスはノートを MIDI ノート番号、タッチを MIDI velocity 数値として見分けます。pRP6 の鍵盤が押されるとノートとベロシティー情報は MIDI OUT から外部機器に送信されます。また pRP6 に外部から MIDI IN ポートを経由してノートと強度情報が受信されるとその情報は再生されます。

- Program Change 番号

pRP6 は MIDI プログラム変更番号 1〜32（フロントパネルと同じ）を送信します。プリセットを選択する度に MIDI プログラム変更番号が送信され、外部 MIDI ユニットの同 MIDI チャンネルの音色が選択されます。

PRP6 がプログラム・チェンジ番号データ（1〜32）を外部 MIDI デバイスで選択すると、pRP6 のプリセットが自動的に選択されます。しかし、これは COMMON チャンネルで受信された場合のみで、他は MIDI 音が選択されます。

コントロール変更メッセージ：pRP6 の SOFT と DAMPER ペダルを押すとコントロール変更データが MIDI OUT から送信されます。この信号を受信する外部機器は pRP6 と同じようにペダルが反応します。同系統のコントロール変更データを pRP6 が受信した場合、適当な反応をします。

MIDI アプリケーション

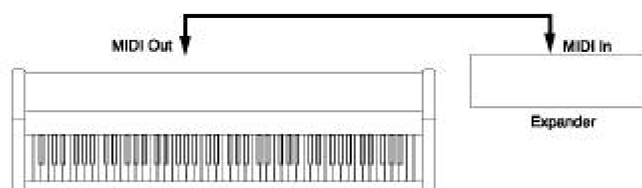
pRP6 を最も一般的な MIDI セットアップで使用する方法を説明します。

a) MIDI コントローラーとして（マスター）

b) トーン・ジェネレーターとして（スレーブ）

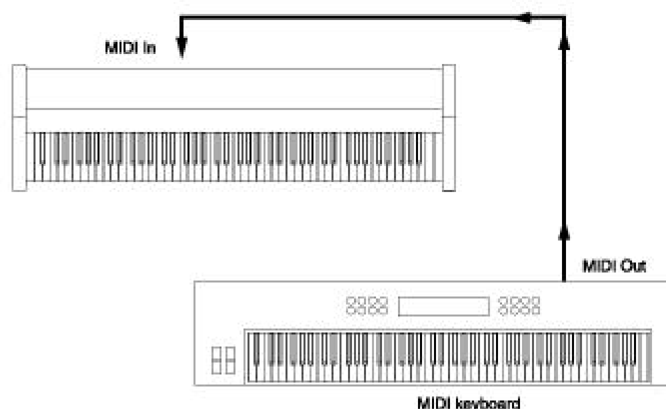
c) MIDI シーケンス録音

MIDI コントローラー



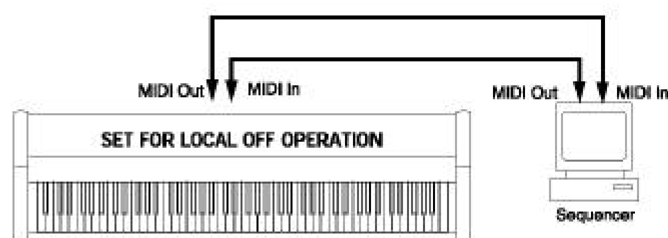
一般的な MIDI 楽器と同じ様に pRP6 はノートとタッチ情報を MIDI OUT ポートから送信します。MIDI OUT ポート経由で外部機器（外部音源モジュール）の MIDI IN へ接続すると外部ユニットは即時に pRP6 の操作に反応します。この接続方法によって pRP6 をコントローリング・デバイス（MASTER）として外部機器（SLAVE）をコントロールし、一度に 2 つの楽器を同時に演奏する事が可能です。
結果として pRP6 のプリセットを選択する度に PROGRAM 変更メッセージを外部機器に送信し、pRP6 と外部機器の音を同時に使用することが可能になります。

SLAVE デバイスとして



MIDI 情報を送信する事だけではなく、同じ種類のデータを外部コントローラーから MIDI IN 端子を通して受信する事も可能です。この場合 pRP6 の MIDI IN ポートと外部機器の MIDI OUT ポートが接続されている事を確認して下さい。上記と全く反対の状態で pRP6 を外部デバイスがコントロールする事も可能です。

MIDI シーケンサーとしての録音



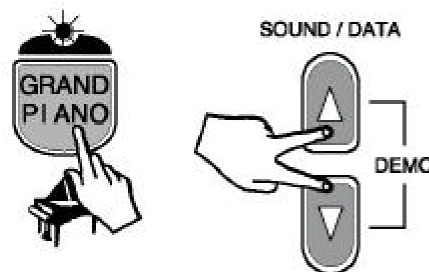
上記の 2 例を利用して簡単に MIDI シーケンス録音が可能です。図の説明通り、pRP6 の MIDI OUT がシーケンサーの MIDI IN へ接続され、シーケンサーの MIDI OUT が pRP6 の MIDI IN に接続します。この接続方法を別名“ MIDI ループ ”と言います。
シーケンサーが付属している楽器又はシーケンサーを使用しているコンピューターで pRP6 から送信された MIDI データをキャプチャー（記録）する事が可能です。
“ 録音 ” されたデータをプレイバックすると忠実に録音したものを再現します。

パネル・リセット

pRP6 にはパネル・リセットボタンがあり電源を切ることなく、初期設定に戻す事が出来ます。

例：MIDI チャンネル、チューニング、や鍵盤感度などの設定を変更したが、初期設定に戻したい場合

・ GRAND PIANO プリセットボタンを押しながら DATA△/▽ボタンを同時に押して下さい。



仕様

Keyboard	76 keys, half-weighted
Polyphony	32 notes maximum
Presets	444 Sounds (MIDI addressable) 32 Presets - Single, Layer and Split, Grand Piano Preset, 22 Reverbs and 22 Effects (Delay/Modulations) memorized to the Presets
Controls	Volume, Data △/▽, Touch, Transpose, Tune, Midi (Channel, Local, Common), Grand Piano Preset
Demo	1 Demo Song
Pedals	Soft, Damper
Connections	Stereo In, Stereo Out, Phones, Pedals, Midi In, Midi Out, 12 V. DC.
Amplification	6W + 6W Stereo

技術

pRP6 は GENERAL MUSIC 特許取得済 “ Damper Physical Model ” 技術を採用しています。

Damper Physical Model

“ ダンパー・フィジカル・モデル ”(GEM 特許収得済み)はダンパー・ペダルに 16 レベルの位置を認識するための “ ハーフ・ペダル ” エフェクトの設定です。“ ハーフ・ペダル ” で弾く事で、アナログ・ピアノのように 1 つや 2 つの音が他の弦の反響を作り出します。ラッチタイプペダルでも違いが確認できます。一度ペダルを踏んでいる状態と踏んでいない状態を聞き比べてみて下さい。

＊Damper Physical Model は Grand Piano 音色のみに使用されています。